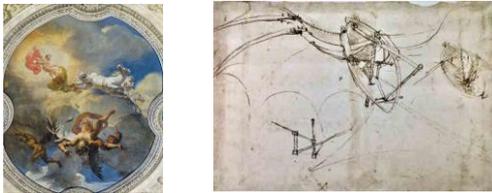


甲状腺外科草子 122

飛行機嫌いの神頼み：飛行神社

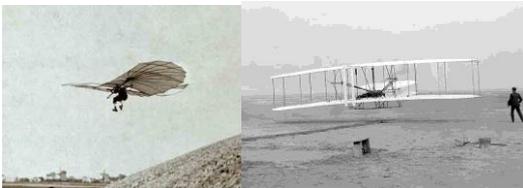
杉野 圭三

大空を飛ぶ夢はギリシア神話のイーカロスにもあり、レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519)も飛行機のスケッチを残している。



イーカロス (ルーブル美術館) ダ・ヴィンチ

近代においてはリリエントール(1848 - 1896)がグライダーによる滑空実験を行い、ライト兄弟が1903年に初飛行に成功した。



リリエントール (1895) ライト兄弟 (1903)

日本における飛行機開発の研究を本格的に行ったのは二宮忠八(1866-1936)とされる。



二宮忠八 (20歳ごろ) 晩年

二宮は愛媛県八幡浜市矢野町出身。陸軍従軍中に飛行機の発想を得て、上官に進言したが相手にされず、開発資金を得るため、大日本製薬株式会社に入社し、業績を挙げて1906年(明治39年)に支社長にまで昇進する。



カラス形飛行器 玉虫形飛行器

その後、資金目途が立ちカラス形、玉虫形

飛行器の模型を製作し、ゴム動力の四枚羽の推進式プロペラを考案している。模型飛行の後、実際の推進力を得るためのエンジンを探しているうちにライト兄弟に先を越され、以後開発は中止された。

飛行神社は忠八の私財により1915年に創建された。場所は京阪電車の石清水八幡宮駅のすぐ近くであるが、少し分かりにくい。駅前の案内所で聞いた方が無難だろう。



石清水八幡宮付近 神社正面

神社前にはF104J戦闘機のエンジンや昭和58年に岸和田沖で引き揚げられたゼロ戦の機首が展示されている。神社内部が撮影禁止なのは残念である。



F104Jのエンジン 零戦機首

資料館には忠八の残した模型飛行機やスケッチなど多数の貴重な資料が展示されている。神社だけあって、ここにしかない飛行機に関する「御守り」が多種販売されていた。

「飛行神社御守護」、「航空安全」、「任務遂行守」、「回転翼守」などである。どんなに科学技術が発達し、安全性が向上しても、空や海上で最後の最後に頼れるのは神のみであろう。土産に沢山の御守りを買いました！



参考資料：Wikipedia, 飛行神社・二宮忠八資料館
(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年12月6日